



蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 37

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚

高瀬・三野畜産共進会
昭和45(1970)年 高瀬町

畜産共進会は、家畜の改良成果を審査し、今後の改良の方向性を定め、畜産を振興していくことを目的として開催されている。写真は、昭和45(1970)年12月11日に開催された第3回高瀬・三野畜産共進会の様子で、肉用牛65頭、乳用牛25頭、豚5頭が出品された。

※文書館では、まちの風景や催事などの古い写真を収集しています。原本はお返ししますので、情報の提供をお願いします。【文書館 ☎63・1010】

「思い出のページ」

「この頃は、ようにぎわったなあ」と懐かしそうに話したのは、三野町で畜産業を営む塩田清勝さん(66)。

「高瀬町農村環境改善センターの西側に農協があった頃やな。各農家から肉用牛、乳用牛、豚がたくさん出品されてな。他の農家がどんな家畜を出しとるか1頭ずつ見ていったな。翌日は、県内外から仲買人とか肉屋の人が来て、競りをしよったんよ。出品された家畜の中から各部門の金賞、銀賞、銅賞が選ばれるんやけど、金賞をとったものにはご祝儀相場で高い値が付いてたね」

当時、高瀬・三野地区で畜産農家は100軒を超えていたが、現在、肉用牛を経営しているのは、三野地区で2軒となりました。

「私は仕事の関係上、畜産を学ぶことになって、自分も畜産業を始めることにしたんよ。昔は地元の人による相談しよったけど、今は少なくなつたね。高齢化と後継者不足はほんま深刻な問題やわ」
それでも、塩田さんは経営形態を変えながら、畜産の振興に

力を注いでいます。県産牛のブランド化に取り組んできた協議会のモデル農家として、「オリーブ牛」の飼育を始めました。

「オリーブ牛は、肉のうま味に加えて、脂の口溶けが良く、後味がさっぱりしとるんよ。当初は県全体で500頭くらいやったけど、今では約2,000頭になつとります。農家数が減つていつてる厳しい世界やけど、盛り上げていかんとな。精一杯愛情込めて育てた牛を送り出すことが、私の仕事やからね」

編集 後記

明けましておめでとうございます。三豊市が誕生して、10年という節目を迎えました。三豊が誇る「市民力」というエネルギーは、三豊の明日を光り輝かせ、新たな魅力と活力を創造してくれています。

今後、豊かな市民力を発信するため、どんどん取材をしていきます。本年もよろしくお願ひします。

